

〔三水記〕永正十六年正月二日、於外様御膳朝餉等事有之。略○中 後聞御膳以前有御齒固之事云々、享祿三年正月二日、御齒固御飯御膳等供之如例云々、聊密々令拜見歸幕、

〔宗建卿記〕享保十八年正月一日、略○中 且御齒固亦近世略儀多、今度被改古法了、

○按ズルニ、此記同日ノ前文ニ、朝餉出御久中絶、今年御再興、仍御膳近日如古法、陪膳女房著衣云々、此事從去年内々有御沙汰、予奉仰申談殿下了、尤正月三箇日七日十五日等、雖可爲如此、當時用途之儀有障、不叶叡慮、仍今日一箇度如古法、略○中 申刻出御于大床子、今度御再興也、次第抑朝餉大床子御膳近世甚略儀、今日御再興之、諸臣恐悦々々、三日、自今年御銚子提片口銀也、去冬予奉之新調之トアリ、是ニ由リテ視レバ、當時用途ノ不足ニヨリテ、正月ノ御祝モ略儀ナリシヲ、今年朝餉大床子御膳等ヲ再興セラル、ト共ニ、齒固ノ儀ヲモ復古セラレシモノ、如シ、〔前恭禮門院御凶事記〕寛政七年十一月三十日、女院崩御、八年正月一日、傳聞、今日被止御齒固、於朝餉御膳者、如例年有供進由、

私家齒固

〔年中恒例記〕年中御對面 并 雜事少々 略○中

一 御齒固事、當月中以吉日行之、仍日不定、此次第の事、先御出座以前伊勢守裏打御祝を御座敷にすゑならべ申す、次に御出座ありて、大上臈はかま著也、御不參の時は日野殿御酌にて、三度被聞召て、又御退座也、其後中臈はかま著用之、守懸參じて、折敷の上に臺を重て、下にまきたる帛にて、ひきつゝみて、御末へ持て出らるゝ也、如此之後、常之三盃參て、あがりて、御末にて伊勢守 并 諏訪御盃給之御服拜領之也、御酌中臈日取書は有春朝臣對諏訪被遣之、御祝は大草調進之、御倉よりの御下行大草と伊勢守と、間の御手水諏訪也、此御祝三箇日の内にてあれば、まづすはに御對面ありて御祝まゐる也、

一 すい花院説曰、齒固上候とき、すゑ候物の事、別には無之、御白散のふたにすわると也、